水戸市立大場小学校　学校だより
令和３年度　第10号　2021.7.7

おおばっこ

あいさつと笑顔がいっぱい大場っ子

未来につなげ　大場の絆

E-mail　510131@sch.ibk.ed.jp　Tel　029-269-2103　Fax 029-269-2159

心の居場所に

空は雨模様。傘をさして正門に立つと，「おはようございます」の明るい声。「すてきなマスクだね」の語り掛けに「ありがとうございます」と笑顔で応じる子供たち。たちまち私の心は快晴に。

学校や学級が子供たちの落ち着ける場所になるようにという思いを込めて，毎朝教職員が子供たちをあいさつで迎えています。通学路や校門，昇降口や教室。様々な場所で「おはようございます」が交わされます。「今日も元気だね」，「何かあったかな」，多くの目で見守り，教職員で情報を共有しています。

この１学期，お子さんにとって学校や学級は落ち着ける場所になっていたでしょうか。何かありましたら，ご相談ください。

さて，学期末を迎えました。教員の事務処理時間を確保するために，保護者の皆様には，児童の少し早い下校にご協力いただいております。家庭で過ごす時間が少し長くなったこの機会に，普段なかなかできないことにチャレンジしている子供もいるようです。皆様のご理解ご協力に感謝いたします。

子供が「自分で考え　自分で動く」　大人は機会や時間を確保しているか

ネットで検索すればあらゆる情報が瞬時に手に入る今，知識量の重要性は低くなっているように感じます。それでは，これからの社会を生き抜く子供たちには，どのような学力を身に付けさせることが求められるのでしょうか。

そのようなことを考えていた時に出逢ったのが**『東大教授が考える新しい教養』**（藤垣裕子・柳田範之：著　幻冬舎：発行）です。

興味深く読んだ箇所を抜き書きします。

「正解探し」の癖を自覚する

「正解がないことに気付く」ことは，特に日本人において非常に重要です。

コーチが日本の選手に対して「自分で考えろ」と指導したとき，選手が何を考えるかというと「コーチは何をやってほしいと考えているか」を考える，というのです。つまり「コーチの頭の中にあるはずの正解」を探し，選手は一生懸命に「考える」わけです。

いくら「考えている」といっても，その頭の使い方は本当に求められているものとは，ずいぶん違ってしまっているといえます。

ここで要求されている「自分で考える」というのは，自分でイマジネーションを得て，自分でどう動くかを組み立て，コーチが想像していなかったようなことにチャレンジすることでしょう。

「コーチ」を「親」や「教師」に置き換えて読んでみると，家庭教育や学校教育の在り方を考えさせられます。

トートバック　出来上がりました！

今週末，初めて家庭に「端末」を持ち帰ります。学校での使用には慣れても，家で一人で取り組むのは難しいお子さんもいることでしょう。説明書を持たせますので，一緒に触ってみていただけたらと思います。

持ち運び用のトートバックづくりには，お忙しい中，大勢の保護者の皆様にご協力いただきました。感謝申し上げます。６年生は，家庭科の時間に，用務員の松井さんにも教えてもらいながら製作しました。